

令和7年度第1学期始業式式辞

おはようございます。令和7年度も、全校生徒そろってスタートできることを嬉しく思います。希望の春です。穎明館生の皆さんは、この希望の春を本当に希望に満ち溢れて迎えていますか。今日はまず、昨年、ご逝去された谷川俊太郎さんの「春に」という詩を朗読して、皆さんと一緒に考えたいと思います。

春に 谷川俊太郎

この気もちはなんだろう
目に見えないエネルギーの流れが
大地からあしのうらを伝わって
ぼくの腹へ胸へそよしてのどへ
声にならないさけびとなってこみあげる
この気もちはなんだろう
枝の先のふくらんだ新芽が心をつつく
よるこびだ しかしかなしみでもある
いらだちだ しかもやすらぎがある
あこがれた そしていかりがかくれている
心のダムにせきとめられ
よどみ渦まきせめぎあい
いまあふれようとする
この気もちはなんだろう
あの空のあの青に手をひたしたい
まだ会ったことのないすべての人と
会ってみたい話してみたい
あしたとあさってが一度にくるといい
ぼくはもどかしい
地平線のかなたへと歩きつづけたい

そのくせこの草の上でじっとしたい
大声でだれかを呼びたい
そのくせひとりで黙っていたい
この気もちは何だろう

穎明館生の皆さん、「春に」は、どうでしょうか。春という季節、またその言葉には躍動感があり、誰もがそこに喜びや安らぎ、あこがれを抱くことでしょう。「春」には「人生の春」、という言葉もあるように、人生における喜び、例えば入学、進級、入社、出世、結婚、出産等々の喜びが、象徴されているといっても過言ではありません。ただ、それを単純に嬉しいとだけ決めつけられない、割り切れないのが私たちの生活、人生だと思います。嬉しい気持ちとともに、逆の面がバランスをとるかのように心に生じているからです。入学した学校や新しいクラスでなじめなかったらどうしようとか、地位やお金、新しい家族が手に入れば、それを失う心配だって生まれます。

作者はこう言います。

「よろこびだ しかしかなしみでもある／いらだちだ しかもやすらぎがある／あこがれだ そしていかりがかくれている」。

穎明館生の皆さん、この春の喜びを謳歌しつつも、その喜びだけに安住することのできない気持ちに共感できますか。新入生、1年生の皆さんが、最もこの喜びと不安の入り混じった気持ちの中にあるかもしれませんね。大丈夫、相反する気持ちが込み上げてくるのは自然なことです。例えば、これから新しい学年での生活では、人間関係で悩むことがあるかもしれません。「自分とは合わないな」と思う人が現れても、「あいつは嫌だ」と決めつけるのではなく、また相手を強引に変えようとするのではなく、その人のよい所を探そう、見つめようとする事で、人間関係のバランスは少しでも保たれるように思われます。

人生の先輩として助言するならば、出来事の両面を見抜く力を身に着けると、その上で心に起こるプラス、マイナスの思いを冷静に受け止めて、上手にバランスを取りながら前に進むことが大切です。

詩の冒頭、作者はこう言います。

「この気もちはなんだろう／目に見えないエネルギーの流れが／大地からあしのうらを伝わって／ぼくの腹へ胸へそうしてのどへ／声にならないさけびとなってこみあげる」

穎明館生の皆さん、我々は地球上の大きな自然環境に生かされているのです。「この気もちはなんだろう」と感じた時には、広大な穎明館の自然に身をゆだねつつ、静かに大地のエネルギーを感じながら、プラスとマイナスの両方の正直な気持ちを味わってみてください。変わり続ける感情とどう折り合いをつけて生きていくのか、それが生きるということなのだ、この詩は教えてくれます。今年度も私は、谷川俊太郎作「春に」を胸に、穎明館生皆さんが、もがきながらも心身ともに、たくましく成長する姿をしっかりと見守っていきたいと思います。

さて、式辞の結びは、創立者堀越克明先生の定めた校訓とモットーです。今年、令和7年は穎明館高等学校創立40周年の節目の年、皆さん個々に、そして学校全体としても新たな挑戦を目指していききたいものです。

新6年生、39期生の皆さん、いよいよ受験学年になりました。「春に」——受験生として多少の不安はあって当たり前、それを上回る希望を強く抱き続け、可能性を信じて、強気で挑戦する1年にしましょう。進学校穎明館では、受験生こそが学校のリーダーです。その頼もしい姿を後輩の皆さんも見習って行ってください。

穎明館生の皆さん、今年度も校訓、モットーを胸に、常に目標、意識を高くもって努力することを期待します。

【校訓】

「 人生は何ごとに依らず その目標は高く設定すべきである
その推進には 高い知性と理性を必要とする 」

【モットー】

「 仁智は無窮 穎才を研きよき地球人たれ 」

以上、令和7年度第1学期始業式式辞といたします。